

## 取組：生徒の発信力を強化するための言語活動を中心とした授業改善と評価及び教師の英語使用状況

### 当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

生徒の英語による言語活動時間やパフォーマンステストの実施率、教師の英語使用状況等において改善が必要である。英語教員の人数が少ない小規模校や単位数の少ない専門学科を有する学校では、校内で多様な実践事例を共有することが難しいなど、自主研修の充実を図ることが困難であることが一因と考えられる。教師の英語使用においても、実践例を共有し、英語による言語活動の実践を促進する必要がある。

### Plan

#### ■取組計画

- ① 言語活動を中心とした授業改善の推進
- ② 生徒の英語による発信力強化のための指導法改善
- ③ 授業における英語担当教員の英語使用の促進

#### ■体制

- ・検討委員会（指導主事及び研究主事、英語教育推進リーダー 研修経験教員等）
- ・パフォーマンステスト検討（指導主事及び研究主事、鹿児島県高英研、研修参加者等）

### Do

#### ■生徒の発信力を強化するかごしま英語教員スキルアッププログラム事業

新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン開催。集合研修に代わり、Googleサイトで研修内容等を確認し、Microsoft Teams内で事前のMEXT Channelのビデオ視聴の意見交換、各校の課題や実践計画のグループ協議、ワークシートやパフォーマンステストのルーブリック等のデータ共有を含む実践報告をするオンライン協議を行った。Microsoft Teams内に各グループのチャンネルを設け、一定期間オンラインディスカッションを行うなどICT活用を意識した研修を行った。パフォーマンステスト、発信力を高めるための言語活動、ICT活用の3つのテーマについて協議した。

#### ■言語活動を中心とした授業改善と評価

研究授業等で英語で言語活動を行うための実践に取り組んだ。教科横断型授業開発支援プログラムでは、探究やSTEAMの視点を取り入れた授業展開や評価に関する研究を行い、その成果をまとめた。ICT機器を活用したパフォーマンステスト等の実践も行われた。研究協力校で授業では英語でのディベートを実践に取り組んだ。また、夏トライ！グレードアップゼミでもディベートやプレゼンテーション等の様々な言語活動を取り入れ、授業提供を行った。

### Check

#### ■授業における生徒の言語活動について

英語教育実施状況調査では、その割合は中・高とも下がった。学習指導要領の解説や指導と評価の一体化を図る内容を各研修で取り扱い言語活動についての理解が深まったが、音読やリテリング等の練習的な活動をこれまで言語活動と認識していたため、その数値が下がったのではないかと考えられる。

#### ■パフォーマンステストの実施状況

中学では100%であり、高校でも98.6%の実施率となり改善された。パフォーマンステストの実践を共有し、他校の事例を参考にすることができたようだ。

#### ■英語担当教員の英語使用状況と教員の英語力

先導的なオンライン研修や研修協力校等で英語による言語活動を継続的に続けた教員の英語力は、英検CSEスコアにおいて高い水準であり、授業での英語使用についても改善が確認された。学びに前向きな姿勢が生徒の英語学習にも良い影響を与えていると考えられる。

### Action

#### ■言語活動の充実

今後も、指導と評価の一体化を推進するとともに、様々な形態の言語活動を共有し、実践できる環境を整える必要がある。鹿児島だけでなく、他県の実践例を共有し、学び続ける教員の育成を図りたい。

### 成果の普及

#### ■生徒の発信力を強化するかごしま英語教員スキルアッププログラムポータルサイト

<https://sites.google.com/view/kagoshimaskillupprogram2021/home>

#### ■県教育センター：学習評価について

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/hyoka/kannren/hs/top.html>

